

令和6年度 事業計画書

学校法人 文理学園

目 次

【1】 学園の事業計画（概要）	
1. 学園の事業内容	・・・3
2. 学園の教育環境整備	
(1) 日 本 文 理 大 学	・・・3
(2) 日本文理大学附属高等学校	・・・3
(3) 日本文理大学医療専門学校	・・・3
【2】 設置校の事業計画	
1. 日 本 文 理 大 学	
(1) 中長期改善施策計画の推進	・・・4
(2) 教育活動	・・・4
(3) 研究活動	・・・4
(4) 就職活動	・・・4
(5) 広報・学生募集活動	・・・4
(6) その他	・・・5
2. 日本文理大学附属高等学校	
(1) 教育活動	・・・6
(2) 広報・生徒募集活動	・・・9
(3) 進学・就職活動	・・・11
3. 日本文理大学医療専門学校	
(1) 教育活動	・・・12
(2) 学科共通教育活動	・・・13
(3) 広報・学生募集活動	・・・13
(4) 就職活動	・・・13

令和6年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、新たに作成する第4期中長期改善施策の実現に向けて、教育環境の充実、堅固な財政基盤の確立を目標とした、令和6年度事業計画を作成した。

【1】学園の事業計画（概要）

1. 学園の事業内容

【基本方針】

本学園は、建学の精神に基づいた人材育成をするために、教育及び研究の充実と経営基盤の改善に全力で取り組むこととする。数値目標を①定員充足率100%超、②事業活動収支黒字化とする改善指針を策定し、具体的な方策を盛り込んで取り組む。また、達成目標及びその進捗管理を客観的に点検し、PDCAサイクルの実質化・高度化を図っていく。

【重点施策】

1. 教育の質的向上：「産学一致」の建学の精神に根ざした、人間性豊かな人材の育成に取り組む。
2. ガバナンス強化とコンプライアンスの徹底：公教育の一翼を担うものとして、社会的信用の維持や向上に取り組む。
3. 持続発展可能な経営基盤の確立：学納金収入安定化のため学生・生徒募集力の維持・強化と管理体制・財務基盤の強化に取り組む。
4. 「学校法人文理学園DX推進ビジョン」：急速に発展・変化するデジタル技術に柔軟に対応・活用できる産業人の育成に取り組む。

2. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

(1) 日 本 文 理 大 学

- ①【中期大規模計画】 キャンパスリニューアル構想（令和5年度～令和10年度）
 - 1) 建物耐震化(耐震補強・改築)計画（令和10年度時点「耐震化率＝100%」目標）
 - 2) 施設・設備等改修計画
（学修及び学生生活環境の充実化、経年・老朽対応、適正性・使途見直し、機能向上・改善、省エネ・省コスト化、設備改良等）
 - 3) 動線（導線）計画、歩車分離（安全対策）
- ② 保健医療学部環境整備等計画（令和4年度～令和6年度）（「教具・校具等」整備）
- ③ 南門駐輪場改修計画（収容、経年劣化対応）

(2) 日本文理大学附属高等学校

- ① のうか寮第1、2 外壁改修（経年劣化対応）、野口寮第1 内装部分改修（経年劣化・汚損対応）
- ② 野口野球場 部室改修（経年劣損）

(3) 日本文理大学医療専門学校

- ① 整備計画なし（業務発生時対応）

【2】設置校の事業計画

1. 日本文理大学

(1) 中長期改善施策計画の推進

「第4期中長期改善施策」の年度別アクションプランを着実に実施していく。

(2) 教育活動

- ① 魅力ある学部・学科・教育内容
 - 1) 学修成果の可視化
 - 2) 教養教育・専門教育、カリキュラムの精選と構造化
 - 3) 優れた授業の実践
 - 4) リメディアル教育の質的向上
 - 5) 教職課程の充実
- ② 多様な地域連携の推進
 - 1) 社会連携活動の強化
 - 2) 保護者、卒業生等との連携
 - 3) 生涯教育・社会人教育の推進
 - 4) 初等、中等教育機関との連携
- ③ 学生支援サービスの充実と発展
 - 1) 学生支援策の検証と新たな方策
 - 2) 退学防止対策の強化（相談室、奨学金、個別健康相談等の見直し）
 - 3) 国外派遣者数の拡大
 - 4) 多様な背景を持った学生の学修の継続や修学支援
 - 5) 各センター等の発展と向上

(3) 研究活動

- ① 社会が抱える課題解決につながる、学部にとられない研究
 - 1) 本学の強みを生かした研究分野の開拓の支援
 - 2) 学部横断型研究の推進、支援体制の構築
 - 3) 高度な研究への取り組み
 - 4) 外部資金獲得のための支援強化
 - 5) 科学研究費等の採択件数の増加

(4) 就職活動

- ① 就職活動支援策の強化

(5) 広報・学生募集活動

- ① 志願者の安定的確保と広報戦略
 - 1) 学生募集計画の検証
 - 2) 入試改革

- 3) 広報戦略の立案
- 4) 戦略的な留学生の獲得

(6) その他

- ① セグメント別収支状況における課題への取り組み（学部・学科改組）
 - 1) 社会のニーズに沿った学科改組、コース改編の検討
 - 2) 定員未充足学科の教育カリキュラムの見直し
- ②教職員人事計画
 - 1) 学科別教員人事計画の立案
 - 2) 全体、部署別職員人事計画の立案
- ③効率的な事務運営・管理体制
 - 1) 事務運営・管理体制の効率化
 - 2) DX体制の確立
 - 3) DXシステムの導入に伴う経費削減
 - 4) リスクマネジメント体制の確立
- ④中長期的な施設整備計画
 - 1) 魅力あるキャンパス計画
- ⑤学生納付金以外の収入の確保、経費削減
 - 1) 特待生制度の検証・見直し
 - 2) 積極的な補助金獲得
 - 3) 積極的な寄付金獲得
 - 4) 新たな収入源となる取り組み

2. 日本文理大学附属高等学校

(1) 教育活動

① 教務部門

- 1) 基礎学力の向上・定着とそれに伴う実力考査及び観点別評価
 - (a) 『授業が大事』という意識付けの定着（生徒&教職員）。
 - (b) 授業前準備の徹底（2分前予鈴）。
 - (c) 観点別評価による学習への取組改善。
 - (d) 観点別評価の生徒への導入と告知、それに伴う教職員の授業改善。
 - (e) 外部模試や学習アプリの導入による、基礎学力向上。
 - (f) 科コースのレベルに合わせた外部模試の実施による進路指導（継続実施）。
- 2) 研修への取組み
 - (a) 研修の参加率を踏まえての事前日時の発表時期や実施時期の検討。
 - (b) 教職員は年度内に必ず研修に参加し、スキルアップを行う。
 - (c) 外部研修の積極的な受講。
 - (d) ビジネスマナーや保護者対応などの研修も受講を推奨。
 - (e) ICT化推進部でのGoogleクラウドアプリ及び生成AIの活用。
 - (f) 高大連携によるルーブリック評価の導入。
 - (g) ICT支援員と連携し、教職員の情報リテラシーの理解を深める。
- 3) 業務のマニュアル化と校務システムの推進
 - (a) 後進の育成と係を中心とした業務の徹底。
 - (b) 教務部を中心とした全分掌との連携。
 - (c) 教務委員会の毎月開催による各係での業務の共有化。
 - (d) Googleクラウドアプリや校務システムやICTを多用したペーパーレス化。
 - (e) 自動採点システム（スマーキー）の導入による仕事の効率化。
 - (f) ICT化推進部と連携した帳票のデジタル化や業務改善。
 - (g) 校務システムを用いて、指導要録や調査書の管理・仕事の効率化に取り組む。
 - (h) 業務のマニュアル化。

② 生徒指導部門

- 1) 学校運営方針に基づく基本的な生活習慣の確立
 - (a) 挨拶の徹底。
 - (b) 清潔感漂う学校作りを目指し、清掃活動を徹底。
 - (c) 登下校時における清潔感ある身だしなみを徹底。
 - (d) 遅刻者データを管理し、時間を守る意識の定着。
 - (e) 法律、校則を遵守する規範意識の定着。
- 2) 交通安全教育について
 - (a) 「大分県自転車の安全で適正な利用等に関する条例」に従い、ヘルメット着用、自転車保険加入の義務化の周知徹底。
 - (b) 各学期に自転車点検を実施する。
 - (c) 佐伯警察署、自動車学校と連携した交通安全教育を実施する。
 - (d) 自転車防犯登録推進と施錠（ツーロック）の徹底。

- (e) 交通ルールの厳守とマナーの向上。
- 3) 防災教育に対する取組
 - (a) 防災に関する知識や意識の向上。
- 4) いじめ防止について
 - (a) 学期毎に全校生徒・保護者を対象としたアンケート調査の実施。
 - (b) いじめの早期発見・解決。
- 5) その他
 - (a) 携帯電話・スマートフォン利用のマナーや個人情報上のトラブル防止に関する学習活動の実施。
 - (b) SNS の問題点に対する教員研修の実施。SNS 利用による犯罪について生徒に周知する活動の展開。
- ③ 特別活動部門
 - 1) 部活動の強化
 - (a) 強化部において全国大会や九州大会レベルで戦えるチーム・選手の育成。
 - (b) 部活動によっては高大連携による合同練習や施設活用などの実施。
 - (c) 学園内進学率の向上に努める。
 - 2) 生徒募集
 - (a) 菅奨学生枠をベースとしながら、質の良い生徒の募集に努める。
 - (b) 強化部以外の一般の部においても積極的な生徒募集を行い定員の充足を目指す。
 - 3) 学校行事
 - (a) 校訓の「自立・勤勉・敬愛」に基づいた、生徒自らで主体的に行動できる学校づくりと地域と学校の連携強化。
 - (b) 県南唯一の私立高等学校として地域から愛され必要とされる学校を目指す。
 - (c) 積極的な広報アピール活動の実施。
- ④-1 普通科部門（特別進学コース）
 - 1) 教科指導
 - (a) 平日の月～金に0限目課題（年140回程度）の実施。
 - (b) 補習（夏季10日、冬季3日、春季3日、土曜10日程度）の実施。
 - (c) 対外模試（1年3回、2年4回、3年10回）の実施。
 - (d) 各種検定対策の実施。
 - (e) 平日18時、土曜補習日の17時まで学習時間確保のための教室開放。
 - (f) 希望者を対象に主要教科の個別添削指導の実施。
 - (g) 推薦入試及び総合選抜入試に対応した面接・小論の個別指導の実施。
 - 2) 進路学習
 - (a) 進路講演会を開催し、生徒の進学意欲の喚起。
 - (b) コース集会を開催し、生徒の進学意欲の喚起。
 - (c) 進学ガイダンスに参加し、生徒の進学意欲の喚起。
 - (d) 出前授業・理系プログラム教育等の実施による学問に対する興味関心の喚起。
 - (e) 受験生から在校生へ受験報告会を行い、進学意識の高揚を図る。
 - 3) 教育支援
 - (a) 3年の大学入試検討会を定期的の実施し、生徒の進路選択を支援。
 - (b) コース主任及び担任による面談を実施し、生徒の進路選択を支援。

- (c) 教員が研修に積極的に参加し、教科指導力の向上に努める。
- (d) 模試分析会を定期的実施し、情報共有及び模試対策の実施。
- (e) 「進路たより」の保護者・生徒に向け配信(年10回程度)による進路選択支援。
- (f) ネット環境を利用した教材を導入による生徒の学習活動支援。

④-2 普通科部門（進学コース）

1) 生徒の学力向上・進学実績向上・進路保障

- (am) ICT端末の活用による分かりやすい授業の実現と確かな学力の育成。
- (b) 新学習指導要領の改訂に伴う観点別評価シートの活用。
- (c) 0限目課題の作成・添削指導の実施。
- (d) 補習（夏季補習等）の実施。
- (e) 対外模試実施後、模試反省会の実施。
- (f) 生徒対象の進路講演会の実施。
- (g) 各種検定など資格取得の奨励・対策実施。
- (h) 進学ガイダンス等への参加実施。
- (i) 進路学習における出前授業の実施。
- (j) 日本文理大学への進学者数を増やす。（高大連携7年一貫教育）。
- (k) 国公立大学の進学も視野に入れた進路学習を、一年次から行う。
- (l) 各行事における生徒によるプレゼンテーションの計画及び実施。
- (m) 進路決定後の3年生を活用した進学に対する意識向上。
- (n) 系列校への進学率向上。

2) 新1年生対象の探究の時間について

- (a) ICT端末の活用による生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成。
- (b) 生徒が主体的に興味を持って活動できる環境やテーマを模索。
- (c) 探究の時間についての教員の理解を深めるための研修などへの参加を推奨。

3) 新1年生キャリアデザインコースに求める事案

- (a) 日々の学習習慣の定着。
- (b) 進学意識の向上。

④-3 普通科部門（キャリアデザインコース）

1) 3つの基礎柱の構築

- (a) 基礎学力の定着。
- (b) 専門科目に対する能力の定着。
- (c) 職業観の養成。

2) 出口戦略の構築。

- (a) 生徒卒業後の進路の確保。
- (b) 進学 日商簿記2級取得を利用した国公立大学への進学と系列大学への進学。
全商検定1級の複数保有による有名私立大学への進学。
- (c) 就職 商業の専門知識を發揮できる銀行や事務職への就職。
日商簿記検定を活用した出口戦略の構築。
- (d) 公務員対策

④-4 普通科部門（ソーシャルコミュニケーションコース）

1) 基礎学力向上

- (a) 入学してからの3ヶ月間で基礎学力を図り、問題点の改善。
- (b) SPI形式の問題に取り組み、進路について考える機会を増やす。

2) 総合的な探求の時間、課題研究

- (a) 校外活動や校外人材を有効利用による生徒の視野拡大。
- (b) 地域の防災に関する知識の深化、地域の企業、団体との連携強化。
- (c) パラスポーツ（ボッチャ）を主催できる能力の育成。
- (d) パネルシアターを通じた発表経験。
- (e) 市内の産業や福祉活動を取り入れた学習活動。

3) 資格取得

- (a) 介護職員初任者研修、手話奉仕員入門課程（選択制）。
- (b) 各種検定の合格推進。

⑤-1 情報技術科（ICTイノベーションコース）

1) 教育ICT推進

- (a) 全生徒タブレット活用、Google Education 活用
- (b) IT 国家試験受験合格（ITパス、補助金 他）
- (c) 実用アプリ作成広報。
- (d) 教材研究（IoT 他）
- (e) 定員確保（女子生徒確保）

2) 知財教育推進

- (a) 知財教育による特色の打ち出し。
- (b) コンテスト入選による情報発信。

3) 高大連携7年一貫教育

- (a) 系列校への進学

⑤-2 情報技術科（デジタルクリエイションコース）

- (a) 生徒PC(Chromebook)活用
- (b) PC環境整備
- (c) 新教材研究(IoT、他)
- (d) IT 国家試験受験
- (e) 総合探究による特色の打ち出し
- (f) コンテスト応募など、外部への情報発信
- (g) 定員確保
- (h) 系列校への進学(高大連携7年一貫教育)

⑥ 機械科

- (a) 資格取得への取組み
- (b) 総合探究の時間の充実
- (c) 進路保障

(2) 広報・生徒募集活動

①-1 普通科部門（特別進学コース）

1) 生徒募集対策

- (a) 中学生対象土曜セミナーの実施による生徒募集。
- (b) 在校生の弟妹調査を早期に行い、成績上位の生徒募集を図る
- (c) 入試後、土曜セミナーやオープンスクール参加者への個別相談実施。
- (d) 中学校への出前授業参加によるコースの魅力を発信。
- (e) 語学研修または海外修学旅行の検討。
- (f) コース再編による新コース提案。
- (g) 在校生のプレゼンによる中学生募集。

①-2 普通科部門（進学コース）

1) 生徒募集対策

- (a) オープンスクールにて、中学生の興味を引くような内容の熟考。
- (b) 合格者説明会での説明に使用する資料の作成。
- (c) 合格者説明会での進学コースの紹介、個別面談の実施。
- (d) 部活動の顧問との連携による中学校訪問。

①-3 普通科部門（キャリアデザインコース）

- (a) オープンスクールにおける中学生の興味を引くような内容の熟考。
- (b) オータムセミナーの実施にて、本校の教育力のアピール。
- (c) 合格者説明会での資料を利用した生徒面談による生徒の確保。

①-4 普通科部門（ソーシャルコミュニケーションコース）

- (a) オープンスクールにて、中学生の興味を引くような内容の熟考。（ボッチャ体験）
- (b) 合格者説明会での説明に使用する資料の作成。（他校のカリキュラムの比較）
- (c) 実施している総合的な探究の時間や課題研究内容の情報開示による広報活動。

②-1 情報技術科（ICTイノベーションコース）

- (a) 出前授業等の取り組み。
- (b) eスポーツなどユニークな活動。
- (c) 新聞テレビ等との連携（記事投稿等）
- (d) SNS活用

②-2 情報技術科（デジタルクリエイションコース）

- (a) オープンスクールでのアピール。
- (b) SNS活用。
- (c) パンフレット製作。

③ 中高連絡・生徒募集部門

1) 佐伯市及び周辺地域の現状

少子化対策。

2) 生徒募集計画

「県南唯一の私立学校として地域から愛され必要とされる学校」の創造、構築。

- (a) 中高連絡としての活動方針として、早期からの情報収集を活用した募集活動の継続。
- (b) 佐伯市内の生徒の確保として、佐伯地域において中学生から選択される附属高校の構築。
- (c) 佐伯市外からの生徒の確保のため、津久見市、臼杵市への生徒募集強化としてスクールバスの運行及び部活動による募集。

3) 中長期ビジョンとして、定員(165名)の確保。

(3) 進学・就職活動

- ① 系列校がある高校のメリットを最大活用。
- ② 国公立大学、難関大学合格率の向上。
- ③ 基礎学力。
- ④ キャリア教育を通じて佐伯市の企業等との信頼関係の構築。
- ⑤ 社会福祉法人太陽の家と連携した組織的な就職支援プログラムの実施。
- ⑥ 外部講師からの講話などの積極的取り入れ。
- ⑦ 本校卒業生とのコミュニケーションを活用した活動の取り入れ。
- ⑧ 就職内定率100%の達成。
- ⑨ 女子生徒が就職したい業種の新規企業開拓。

3. 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

① 診療放射線学科

1) 個別指導

- (a) 学習意欲の向上、退学生数の減少。
- (b) 学生の到達度に合わせた資格試験対策の実施。
- (c) 基礎的な内容の小テストを授業開始前に実施（基礎学力の向上）。
- (d) 成績不良者には課外学習を義務付け、早期指導を徹底。
- (e) 不得意科目の克服を目的に、授業時間外の学生指導を徹底。
- (f) 臨床実習前に、社会人としての礼節を伝え、円滑な実習となるように指導。

2) 国家試験合格率100%を目標にした、支援体制を強化

- (a) 夏期休業中に国家試験対策講座を開講。
- (b) 強化合宿を9月に実施。
- (c) 年7回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底（有料模試を導入）。
- (d) 全講義終了後、国家試験まで直前対策講座を開講。

3) 関連資格の取得

- (a) 第1種、第2種放射線取扱主任者の資格取得奨励（放課後及び夏季休業中に特別対策講座を開講）

② 臨床検査学科

1) 個別指導

- (a) 担任による個別面談（信頼関係の構築）。
- (b) 必要に応じた保護者との連携、面談の実施。
- (c) グループでの課外学習を奨励した指導。
- (d) 学生の変化への対応（学生面談、必要に応じた保護者連絡、カウンセラーへの相談）。

2) 国家試験合格率100%達成を目標に、支援体制を強化

- (a) 強化合宿を9月に実施。
- (b) 年9回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底（有料模試を導入）。
- (c) 課外学習（グループ学習）の環境整備。
- (d) 対策講座を12月末から国家試験直前まで開講（各科目で少人数の指導を実施）。

3) 関連資格の取得

- (a) 第2種ME技術者（希望者のみ）の資格取得を奨励。

③ 臨床工学科

1) 学習指導体制を整える取り組み

- (a) 相談しやすい環境の構築（担任・副担任による個別指導や、保護者との連携強化）。
- (b) 成績不振の学生へのフォロー（放課後での少人数補講及び遠隔授業を活用）。
- (c) 「理解を実感できる授業」を心がけ、学生自身が考える能力を育む授業を実施。

2) 国家試験合格に向けた支援

- (a) 強化合宿を9月に実施。
- (b) 年10回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底（有料模試を導入）。
- (c) 国家試験対策講座（集中講義）を実施。

3) 関連資格の取得

(a) 第2種ME技術者の資格取得を奨励（放課後及び夏期休暇中に特別対策講座を開講）

(2) 学科共通教育活動

- ① 学生への授業アンケートの実施。
- ② 後援会による保護者への個人面談会の実施。
- ③ 実習先との連携を図る意見交換会の開催。
- ④ 臨床実習の集大成である実習発表会の実施。
- ⑤ 外部関係者との意見交換の実施（学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会）。
- ⑥ 校友会（卒業生）と連携した地域交流会の開催。
- ⑦ ボランティア活動への参加を支援、強化。
- ⑧ 国家試験不合格者への聴講生制度を利用した指導の徹底。
- ⑨ 学会の研修や発表による、教員の教育能力を向上。

(3) 広報・学生募集活動

令和5年度入学生以降の学生募集を停止しており、保健医療学部の入学者増に向けて、協力体制を継続する。

(4) 就職活動

- ① 就職活動を早期化と質の向上に対する指導の実施（年度内での就職内定率100%）。
- ② 応募書類の添削、適性検査対策、面接指導およびオンライン面接等への指導。
- ③ 求人情報データの整理と分析（学生及び保護者への視覚的な情報提供）。
- ④ 「進路探求セミナー」プログラムの企画と実施（3回/年度）。
- ⑤ 「対面就職説明会」や「オンライン就職説明会」の随時開催。
- ⑥ 各病院・医療機関との連携強化、地域の情報収集を実施。
- ⑦ 医療機器メーカーへの就職斡旋等、進路選択の幅を拡大。
- ⑧ 「保健医療学部」への情報提供。